

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

大町高等学校

## 登山計画書の申請について

長野県内の山に登るとき、諸賢はどのように登山計画書を提出されていますでしょうか？ご存知の方には釈迦に説法でしょうが、私は、最近では電子申請を利用していますので、ご紹介いたします。

長野県警の山岳情報のホームページ

<http://www.pref.nagano.lg.jp/police/sangaku/index.html> の「登山計画書」の項目の中に「登山計画書」の項目があります。ここから「登山計画書をメールで送る」をクリックすると、メールフォームが表示されます。あとはそれに沿った形で送信すると、すぐに右記のような申し込み終了画面となり、「到達番号」と「問合せ番号」が返されてきます。

計画書を送る方法は3通りあって、(公社)日本山岳ガイド協会のコンパスで登山計画書を作成して送る方法、申し込みフォームを利用してそこに情報を書き込んで送る方法、申し込みフォームに自作の計画書を添付ファイルとして送る方法の中から任意の方法を選べます。僕は、いつも自作の計画書を作成して(させて)いるので、最後の方法を選んでいきます。

以前は、登山口で提出したり、県警の地域課(現：山岳安全対策課)へ送付したりしていましたが、登山計画書には個人情報も満載なので、最近では管理があいまいな登山口のポストは利用するのはやめて、この方法で届け出ています。HPでは「登山計画書に関する個人情報は山岳遭難発生時の救助・捜索活動のために利用します。」の一文があるので、一応、警察を信用しています。

「登山計画書」	
申し込み完了	
「登山計画書」の申し込みを完了しました。	
「問合せ番号」はメールでは通知いたしません。	
「到達番号」と「問合せ番号」は、この後の申し込み状況を照会する時などに必要となりますので、内容を確認の上、このページを印刷するか、メモに取るなどして、必ず控えるようにしてください。	
到達番号 :	144_264_628_1354
問合せ番号 :	xrxRq%
注意事項:	
お問い合わせについて	
お申し込み頂いた内容等のお問い合わせには、上記「到達番号」と「問合せ番号」が必要となります。	
このページを印刷して保管してください。	

## 南信高体連の沢登り研修会

飯田高校の杉山先生から、9月4日に南信(長野県の諏訪・上伊那・下伊那地区)高体連登山専門部が主催する生徒顧問研修会について、「信高山岳会の例会山行と兼ねて実施したいがいかが？」というお誘いがあった。信高の例会としてはもちろん、一も二もない。貴重な経験でもあり、面白そうだったので、地区は違ったけれど生徒にも声をかけて、オブザーバーで参加させてもらった。補習授業と重なったり、けが人がいたりということで大町高校からの生徒は1名のみ参加だったが、研修会全体では約40名の参加を得て盛況な研修会だった。

今回の研修会は岐阜県の高原川白水谷を使つての沢登り。沢渡駐車場に午前7時30分に集合。そこからは、車約10台を連ねて、白水谷へ。盆過ぎからずっと天候が不順で雨続き、加えて急速な秋の訪れで前日までの一週間はむしろ肌寒いくらいの陽気であったが、今日だけは上天気。

9:25、開講式に続いて早速入溪。入溪地点は岐阜県高山市上宝町鼠餅（ねずもち）地籍、沢上谷との合流点の下部。のっけから胸までの渡渉を強いられる。いずれ全身びしょ濡れになるのはわかっているが、まだ泳ぐほどの勇氣もない。早速持っていたロープを張って、渡る。

このところ降り続いた雨のため、沢は思った以上に増水している。講師でもある赤穂高校の池迫先生も「何度も来ている場所だが、これだけ水が多いのははじめて。」と、やや当惑しながらも見事なルートファインディングで、先頭を進む。危険箇所では、生徒に気を配りながら適切なアドバイスとサポートはさすが。しかし、人数も多いので予想外に時間がかかる。

10:35、いったん、林道に上がり、沢上谷との合流点の上部からもう一度沢に入ることにする。再び沢に下りたってやはりその水量の多さに驚いたが、偵察に行った池迫講師の行けそうだという一言に安堵して前進する。次々と現れる小滝をいくつか乗り越えながら、次第に要領をつかんできた生徒たちもまさに水を得た魚よろしく、積極的に進んでいく。今回は若い顧問の姿も多く、はじめて体験するという先生もいたが、非常に頼もしい。滝つぼで泳ぐ生徒も現れ、漕も泳ぎで前進する。・・・谷から上がったのは13:30。進んだ距離はわずかであったが、顧問にとっても、生徒にとってもこの夏を締めくくる貴重なそして楽しい一日となった。

参加者は、飯田（生徒2、顧問1）、飯田OIDE長姫（生徒10、顧問2）、下伊那農業（生徒10、顧問2）、飯田風越（生徒3、顧問2）、岡谷工業（生徒4、顧問1）、諏訪清陵（生徒2、顧問1）、大町（生徒1、顧問1）、赤穂（講師1）と総勢40名をこえる大部隊。

## 編集子のひとごと

南信高体連の研修会の様子をレポートしたが、南信地区は長野県内で今一番元気だ。この沢登り研修会の翌日、山岳総合センターの高校生クライミング研修会が開かれたが、連日にも関わらず、遠路こちらにも参加された高校は多かった。そしてその中には、「まずは、体験」と謙虚な姿勢で生徒とともに学ぼうという若い顧問の先生方が積極的に参加されていると聞いた（筆者不参加）。中信地区も負けてはいられない。（大西 記）

